

一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会

ソーシャルワーカー10か条(第2版)

①「相談」の専門職として、しっかり患者さん・ご家族の相談にのろう

【考え方】

ソーシャルワーカーは病気や障害で生活上の問題を抱えた患者・家族の問題解決を図る対人援助職です。患者さん・ご家族の相談者として信頼関係を構築し、患者さん・ご家族の思い、話をしっかりと伺い、理解することを第一に行います。介護保険サービスを紹介することや、リハビリチームの目標を患者・家族に受け入れさせることだけに専心していないか、自らをチェックしましょう。

【チェック項目】

- ソーシャルワーカーが相談援助職であることを、患者さん・ご家族に分かりやすく案内している
- 初回面接時に、患者さん・ご家族へソーシャルワーカーの役割についてオリエンテーションを行っている
- 依頼内容や主訴だけで動かず、ソーシャルワーカー自身が患者さん・ご家族のニーズを捉えている
- 相談援助職としての態度(バイスティックの7原則など)と技術(面接技術など)を身に付けている
- 患者さん・ご家族が相談してよかった、解決に向かった、と思える対応をしている

②身近で相談しやすい存在として病棟に顔を出し、こちらからも声をかけよう

【考え方】

相談室に来室できない患者さん・ご家族も、多くの相談ニーズを持っています。ソーシャルワーカーは相談室(面談室)で面接を行うだけでなく、自ら病棟に出向き、患者さんへ声をかけ、いつでも相談できる相談援助職としての存在を示すことが求められます。病棟やリハビリ室で得られる、患者さんの言葉や表情・行動は、ニーズをアセスメントするうえで、とても大切な情報です。また、ソーシャルワーカーが病棟に顔を出すことで、他職種との情報交換が促進される効果もあります。それらを通して、より精度の高いニーズ把握ができ、質の高い相談援助、チームアプローチに貢献することができます。

【チェック項目】

- 話しやすい関係作りのため、日頃から患者さん・ご

家族へ気持ちよく挨拶するなど心がけている

- 病棟生活の様子に合わせ、患者さん・ご家族が話しやすい環境下で面接している
- 病棟での患者さん・ご家族の表情・行動を大切にし、面接を行なっている
- 必要時、リハビリテーション場面に立会っている
- 患者さん・ご家族の療養生活を身近に感じ、病棟スタッフと協働している

③その人らしい生活とは何かをアセスメントしよう

【考え方】

ソーシャルワーカーが入院前の患者さん・ご家族の心理社会的背景(サイコソーシャルバックグラウンド)をアセスメントする際は、情報の列挙にとどめず、患者さん・ご家族のこれまでの生活の特徴、大切にしてきた価値観、今回の病気をもたらした影響に重点をおいた、患者さん・ご家族の取り組み方の個別性を言語化しましょう。そして過去と現在の状況から、今後どのような生活を送ることができそうか、を患者さん・ご家族と共に考え、言語化することが質の高いソーシャルワークアセスメントとなります。

【チェック項目】

- 患者さん・ご家族像のアセスメントを行なっている
- 身体・心理・社会的側面を、過去・現在・将来の時間軸で情報収集し、情報統合を行なっている
- 患者さん・ご家族の生活に病気をもたらした影響をアセスメントしている
- 患者さん・ご家族が、大切なことを決めるときの傾向をアセスメントしている
- アセスメントを記録に記載し、カンファレンス等でチームに発信している

④障害受容の過程を支援しよう

【考え方】

患者さん・ご家族の障害受容のプロセスを支援することは、ソーシャルワーカーの大切な役割のひとつです。多くの場合、患者さん・ご家族にとって障害受容とは長い年月のかかる過程で、回復期リハビリテーション病棟入院中に達成できるものではありません。それでもソーシャルワーカーは、

患者さん・ご家族が入院中のリハビリテーションの目標に納得し、次のステップである退院後の生活へ一歩踏み出す気持ちになれるよう、あるいはその気持ちになれない場合にはどうすればよいのかを、考え続けることが重要です。患者さん・ご家族の抱えている感情や背景に配慮しながら、遠い将来の目標だけでなく、実践できそうな具体的な行動や目標を見出すことができるよう援助しましょう。

- 患者さん・ご家族の現状認識やリハビリテーションに対する理解を、経過を追ってアセスメントしている
- 患者さん・ご家族の障害の受容の状況を他職種と共有している
- 現状と患者さん・ご家族の認識の差異を確認し、アプローチ課題を見つけている
- 患者さん・ご家族の感情や状況理解に合わせ、面談を通して、退院後の生活の一歩につながるようエンパワメントしている
- より身近な、より具体的な目標を患者さん・ご家族と共有している

⑤患者さんの自己決定に基づいた退院援助をしよう

【考え方】

退院準備にあたり、患者さん・ご家族は様々な事柄について、多くの選択を行います。ソーシャルワーカーは、患者さん・ご家族が自分で自分の生活を考え、決めることを大切にしながら援助をしましょう。また自己決定に至るまでに準備が必要であることを、ソーシャルワーカーはしっかりと認識し、他職種にも伝えていきましょう。「患者さん・ご家族が〇〇と言っていた」だけでは、自己決定を尊重しているとは言えません。患者さん・ご家族がきちんと決めることができるよう十分に情報サポートすること、あるいは決めることができる力を持てるようあらかじめ心理・社会的問題の解決を図っておくことも、ソーシャルワーカーの大切な仕事です。

【チェック項目】

- 患者さん・ご家族へ、ソーシャルワーカーが自己決定を尊重していることを伝えている
- 方針決定に際して、患者さん・ご家族が自己決定できる心理・社会的状況にあるかをアセスメントしている
- 患者さん・ご家族の持つ強みを大切に、患者さん・ご家族をエンパワーするアプローチをしている
- 必要に応じて、方針を具体化する話し合いの場に

ソーシャルワーカーが同席し、患者さん・ご家族の意向が反映されるよう介入している

- 一度、患者さん・ご家族が決めたことであっても、変更の申し出があった場合には、ソーシャルワーカーが相談にのっている

⑥退院後の生活を常に気にかけて援助しよう

【考え方】

ソーシャルワーカーは、患者さん・ご家族が安心して生活の一歩を踏み出せるように援助することが求められます。患者さん・ご家族にとって、退院はゴールではなく、生活の再スタートを意味します。多かれ少なかれ、これまでとは同じようにいかない不安を抱えながら退院を迎えることでしょう。そのためには入院初期から、退院後の患者さんの経済状況・復職への道筋・家族関係・社会との繋がり、保健・医療・福祉・介護体制を意識し、患者さん・ご家族の状況に照らし合わせながら援助計画を立てることが必要です。

【チェック項目】

- その人らしい生活構築を常に意識し、支援している
- どのような生活を送りたいのかを理解し、その「思い」に寄り添っている
- 「思い」の実現をアドボケートしながら、リハビリテーションスタッフ等と協議している
- 退院後の生活を支援する地域関係者・外来訪問スタッフと連携している
- 退院時だけでなく、退院後何年もつづく生活をイメージして援助している。

⑦リハビリテーションチームの一員として相談援助のプロセスをチームと共有しよう

【考え方】

ソーシャルワーカーの相談援助のプロセスは、他職種にとっても大変重要な内容です。時としてソーシャルワーカーは、秘密保持を理由に相談内容をタイムリーに他職種へ伝達することがあります。チームの一員としてチームアプローチに貢献できるよう、他職種との適切な情報共有を心がけましょう。そうすることで、ソーシャルワーク援助が、援助開始⇒情報収集⇒ニーズ把握・アセスメント⇒援助計画(プランニング)、援助実施⇒モニタリングという一連のプロセスを経て行われるエビデンスに基づいた援助であることを、他職種も理解する

ことができ、より質の高いチームアプローチが達成されま
す。

【チェック項目】

- 他職種との情報共有を業務として位置づけている
- 他職種と情報を共有すべき根拠が説明できる
- カンファレンス・主治医面談等の場面を有効に活用している
- 一連のプロセスをしっかりと記録に残している
- アセスメントやプランニングの修正を適時行なっている

⑧カンファレンスでは、患者さん・ご家族のニーズを把握し、代
弁しよう

【考え方】

治療計画は病院のスタッフのみで決定し患者さん・ご家族
に伝えるものではありません。その人らしい生活の再構築
のためには、治療計画に患者さん・ご家族の意向が組み込
まれていることが大変重要です。ソーシャルワーカーは、患
者さん・ご家族の代弁者としての役割を果たす必要があります。
カンファレンスでは援助過程で把握した患者さん・ご
家族のニーズをチームの他メンバーにわかりやすく伝え、
それが治療に組み込まれるよう働きかけなければなりません。

【チェック項目】

- 患者さん・ご家族のニーズを把握している
- ニーズに基づくソーシャルワーク援助計画を立案している
- カンファレンスで代弁する内容を明確にしている
- 他職種に向けての伝え方を工夫している
- 患者さん・ご家族の意向が組み込まれたかどうかを点検している

⑨常に最新の社会資源の情報収集・情報提供、新しい社会資
源の発掘を心がけよう

【考え方】

ソーシャルワーカーは、最善の実践を行う責務があること
から、最新の知識・技術を得るよう努めます。そして、実践
現場において知り得た知識や情報を惜しみなく提供し、患
者さん・ご家族の自己決定に活用していけるよう援助します。
患者さん・ご家族の地域の実情・社会資源を把握すると
共に、地域の保健医療福祉機関と連携・協働し、社会資源

の情報収集と発掘を心がける必要があります。

【チェック項目】

- 社会資源の情報が整理され、すぐに活用できる状態にある
- 社会資源の情報は、内容・特徴を捉えたものになっている
- 質の高い実践を行なっている事業所、施設を把握している
- 地域の行政・地域包括支援センターの担当者と顔の見える連携があり、相談できる関係にある
- 地域で開催される会議に、ソーシャルワーカー部門として積極的に参加している

⑩地域との窓口になり、回復期リハビリテーション病棟の理念
を地域に啓発しよう

【考え方】

ソーシャルワーカーは、個別支援だけでなく、組織間連携な
どを推進し、制度政策に働きかけ、地域住民に役立つ仕組
みを整えていく機能を担っています。ですから、回復期リハ
ビリテーション病棟の理念である、ADL 能力の向上と在宅
復帰を目的としたチーム医療の実践について、ソーシャル
ワーカーは急性期と在宅をつなぐ要である回復期リハビリ
病棟の窓口となり、回復期リハビリテーション病棟の理念を
広く地域社会に啓発する重要な役割を担います。

【チェック項目】

- 地域住民が来談や電話など相談しやすいソーシャルワーク部門の体制となっている
- 急性期から居宅サービス・施設まで諸機関の連携窓口として機能している
- 電話や書面だけの連携だけでなく、アウトリーチとして訪問を行っている
- 地域リハビリテーションのニーズ把握や地域ケア体制システムへ参画するなど地域におけるネットワークづくりに貢献し、把握に努めている
- 地域リハビリテーションの概念や回復期リハビリテーション病棟の理念を理解している